

研究課題	2.2 気象レーダーを用いた噴煙の汎用的解析手法に関する研究
研究期間	平成 29 年度～平成 31 年度（3 年計画第 1 年度）
実施官署	鹿児島地方気象台
担当者	〔鹿児島地方気象台〕 稲葉博明、小窪則夫、重信有三、池亀孝光、籠原宏之、河野太亮、小枝智幸、山下千尋、竹下孝弘、渡辺茂、長山泰淳、古田仁康、井上温史、千馬竜太郎、福島秀樹、末次秀規、満永大輔
担当研究官	〔火山研究部〕 ○佐藤英一
目 的	地方官署（現業）における気象レーダー網を用いた汎用的な噴煙解析技術の確立である。また本研究を通じて、まだコミュニティの規模としては小さい、気象レーダーを用いた火山噴煙解析分野の裾野を拡大することである。
目 標	汎用的な火山噴煙解析ツールを作成する。
研究の概要	・気象研究所による解析方法を使い、桜島などの噴火事例による事例解析などを行う。 ・気象レーダーによる解析手法をとりまとめる。検討の際には、OJT も行う。また、手法の限界についても取りまとめる。
平成 29 年度 実施計画	・地方官署職員を対象とした火山噴煙解析手法の講習 ・火山噴煙解析手法の検討 ・技術開発環境の構築 ・噴火事例の解析
波及効果	・気象レーダーによる汎用的な火山噴煙解析ツールを用いることにより、日常的に噴煙解析を行うことが可能になれば、気象庁内の噴煙解析技術の底上げ（スキルアップ）につながる。 ・気象研究所では、気象レーダーを用いて噴煙高度を高度に推定する手法の開発を行っているが、本共同研究を行うことで、気象研究所で開発中の手法についても、（現場からの）フィードバックが得られる。 ・降灰予報の安定的な予測への寄与という意味でも、事例の蓄積は重要である ・気象レーダーを用いた火山噴煙の解析的研究については、（MP レーダーなどの）最先端の技術を得て、新たにスタートしたところであるが、コミュニティの規模が小さい。本共同研究は、学術的な意味での裾野拡大も目指している。本共同研究を経てスキルアップした職員が、（気象レーダーを用いた）次世代の火山監視業務の中心的な役割を担うことを期待している。